

〒183-0034 東京都府中市住吉町 4-47-16

Tel/Fax 042-354-3044

E-Mail fuchu_nakagawara_church@hotmail.com

HP <https://www.fuchu-nakagawara-church.com>

牧会書簡／日々の祈り

（付：日々の学び）

2020年5月3日（第六報）

遅くなりましたが、牧会書簡等をお届けします。聖書の学びや祈りの手引きとしてお用ください。前回お知らせしたとおり、礼拝説教は、5月31日のペンテコステまで連続して「復活と聖霊降臨」を主題にします。すでに前回、その日までのすべての説教原稿を合わせてお届けしています（実際には、週ごとに区切りをつけ、一部言葉を補いつつ語っています）。復活日と聖霊降臨日との間の日々を、希望のうちに歩みたいと願います。みなさま心を高く、聖霊のみちびきを求めて祈り歌いつつ、主にある喜びと感謝を味わい過ごされますように。

目次

目次

牧会書簡（6）敬愛する皆様へ～牧師の近況報告と入院していた姉妹方について	1
日々の祈り「信仰を強めてください」	4
日々の学び（補助資料）	（添付）

牧会書簡（6）

敬愛する皆さまへ

～近況報告：私のことだけでなく、前向きなお知らせが二人の姉妹に関して届けられたことについて。

主の御名を讃美いたします。

お手紙がいつもより遅くなり、大変失礼いたしました。いかがおすごでしょうか。私や私の家族は、かわらず通常の8 / 9割ほど外出を自粛しつつ、もっぱら家で元気にすごしております。その分、こどもと戯れる時間と、パソコンに向かってお喋りする機会が増えました。姿勢が曲がり、眼精疲労がたまることが目下の悩みですが、それでもこのような時ですから、ソーシャル・ディスタンスを保ちつつの対話が許されることは喜ぶべきなのだと思います。昨日は、中会内の牧師数名とビデオ通話でお話（雑談）する機会が与えられ、各個教会の決断や取組みについて情報交換ができました。みなさんかえって忙しくしておられるようで、何よりこの時にこそ聞き取るべきことばに心を向け、応じて実践できるよう、深く祈りつつ務めておられることがわかりました。

私自身、当初、家にこもる期間は読書時間（＝インプットの時）が増すはずだと期待していたのですが、外に向けてのアウトプットの作業時間がまさって、そううまくはいきません。神学校や大学でのオンライン授業が本格的に始まるだけでなく、「臨時対応」のはずの期間が長期化する見通しの中で、顔を合わせなくとも学生が視聴して学べる良い教材資料や授業動画を作成するため、多く時間を費やす日々です。せつかく労して作っているものですから、今回、教会の皆様が聖書の学びにも資するものがあれば転用を、とも思い、会員限定にはなりますが、本冊子の付録として「教材」の一部をお目にかけてみます。これによって、私が教会外ではどのような方法で、どのような主題に取り組もうとしているか、垣間見ていただければ幸いです（複写や転送などはお控えください。文章の性格上ホームページ上には公開しません）。学生向けで文字が小さく読みにくいと思いますが、関心がおありでしたら、皆さんも、教会の「外」からの視座をもって聖書を開き、そこで示される「普遍的な主題」について考えてみてくださればと思います。

牧会書簡（6）

これまでの生き方では締め出してきた「外からの視座」で、「日常」や「当然」だと考えていたことを問い直す、それが今、私の心をとらえている一つのアプローチ法です。「疎外」「例外」「被差別」「他者」「境界線」そういったキーワードについて考えながら、主の御前に、世にあって、自分がどこに立ち所を見出すのか、確かめていきたいと考えています。なお、お約束している「旧約聖書における病」の文章は、なかなか形にできておらず、重ねてお詫び申し上げます。準備は進めているので、どこかで共有できるよう（たとえば祈祷会で？）機会を探りたいと思います。

今回は私自身の近況報告を、と考えた結果、いつも以上に冗長な牧会書簡となり、これもまた恐縮です。煩雑な毎日の過ごし方をしていますが、深いところで思いはいつも、敬愛する教会の皆様の傍にあることを、信じていただけるでしょうか。お会いできない日が続くと、ついにお会いできる日の喜びはいかばかりだろうと、そればかりが楽しみになります。思えばこの思いは、私たちが終わりの日の主との出会いの希望を知るものとして、知っているはずの喜びでした。しかしこれまで、今日ほど「時満ちて回復される交わり」を期待したことはありませんでした。とくに聖餐礼拝が待ち遠しい！ 私は今、ここからそう思って、「都にのぼる歌」の出発点に立っているような思いにさせられています。

そんな日々に、御前に集う来るべき時の前味を味わわせてくださるかのように、やむを得ない理由で連絡が一時途絶えたり、声を聞く機会が失われてしまっていた方々から、突然お電話があるときのうれしさ。その大きさについて、私はこれまで以上に、この数か月間、いや数週間でいよいよ心にかみしめるようになりました。みなさまの声を聴きたいと、いつも思っています。そのためひとつの方法として、（オンラインの）ビデオ通話などで、祈祷会を再開できないか、できるだけ多くのお心ある方が加わることができる方法を考えて、小会に提案してみようと考えているところです。皆様からも、公的礼拝休止期間中の教會的な交わりについて、お知恵やご意見があれば、メールやお電話等で声を聴かせていただければと思います。

そろそろ長すぎるので終わりにしますが、ここで目次でほのめかしていたご報告を。今週は、退院なさったばかりのおひとりの姉妹と、リハビリに尽力し転院なさった姉妹の姪御さんから、お

牧会書簡（6）

電話やLINEメッセージを通してご連絡をいただき、感謝の思いを与えられました。祈りに覚えていた方々から、人生に前向きなメッセージをいただけることは、やはりとても嬉しいことですね。その後、改めて皆さんの顔を思い浮かべながら行った感謝の祈りのひとときもまた、幸いな時間となりました。

二人の姉妹とは誰のことか、会員の方はお分かりだろうと思います。退院された姉妹は手術も成功し、ご家族の助けをえながら自宅での生活ができることを喜んでおられました。一方、転院された姉妹は、生きるために口を動かし食べることにつとめてこられました。リハビリを通して新しい環境に前向きに向かっておられることを示しておられるのだと受け止めました。お会いできる時を心待ちにしつつ、今は皆さんとご一緒に、主が癒しの御手をのべて姉妹がたに平安と祝福を与えてくださいますよう、お祈りを重ねたいと存じます。

今日は、自分のこと、教会内のことばかりをつづってしまいました。紙幅さえあれば、なお書きたいこと、書かなければならないことが多く頭に浮かんではいります。地域のこどもたちのこと、政治の、とくに「非常事態」にかこつけて推し進められようとしている改憲をめぐる議論の「危うさ」のこと、私は本当は一番に書くべきだと分かっていることを、後回しにしてしまっているかもしれません。何より、わたしのお手紙にはみことばの言及があまりに少ないのではないのでしょうか。たしかにそうです。ここでは、詩編103～106、および107編など、聖書に群れなす「ほめたたえの詩」がわたしを今毎日支えている、という一言だけをもって、その正当な問いかけに、応じて筆を置かせていただきます（＝パソコンを離れて伸びをします……）。

2020年5月3日 府中中河原教会 牧師 大石周平

日々の祈り～信仰を強めてください

教会による「日々の祈り」。今回は、奥野玲子長老が、「日々の祈り～信仰を強めてください」と題して整えてくださいました。合わせて朝ごとに「主の祈り」を祈りましょう。新たなる命の希望をもって御名をほめ讃え、祈りに祈りを重ねましょう。

主イエス・キリストの父なる神様、御名を讃美いたします。

敬愛する兄弟姉妹と共に集い、顔を合わせて礼拝に与ることができなくなって1ヶ月余りが過ぎました。その間も良き備えの中で、各々が一人で、あるいは家族で主に礼拝を捧げることのできる幸いを心から感謝いたします。それでも共に主の食卓に集められて聖餐の恵みに与ることのできない寂しさを感じざるを得ないでいます。

主イエス・キリストは十字架上で肉を裂き血を流して私たちの罪の贖いの犠牲となってください、3日目に復活なさいました。聖餐式は、弱い私たちの信仰が強められるように、目に見える徴として、主イエス・キリストが再び来られる時まで繰り返し行うようにと、主ご自身が定めてくださった食卓です。今、コロナウイルスの脅威の中にある時、復活の主と共に永遠の命に生かされているという同じ恵みの中で、地域や言葉や文化の違いを超えて主イエス・キリストを救い主と信じ、主の聖餐に与る世界中の人々と私たちが共に主を仰ぎ、祈る者たちとされていることを思われます。願わくはこの脅威が去って、再び喜びの中で主を礼拝し聖餐の恵みに与ることのできる日が一日も早く訪れることを切に祈ります。

「…今しばらくの間、いろいろな試練に悩まねばならないかもしれませんが、あなたがたの信仰は、その試練によって本物と証明され、火で精錬されながらも朽ちるほかない金よりはるかに尊くて、イエス・キリストが現れるときには、称賛と光栄と誉れとをもたらすのです。」（ペトロの手紙一、1：6～7）

五月第一主日は日曜学校日。現在子どもたちは外出自粛要請のために、新しい学校・学年を迎えている時期なのに通うことができないでいます。新しい先生や友だちと出会い、多くのことを吸収し、動きまわりたいのに自由を奪われていることに胸が痛みます。どうか主が顧みてください。教会の子どもたちやこの地域の多くの子どもたちが、主にある平和の中で心身ともに健やかに成長していくことができますよう祈ります。

この時期に困難の中にある人々を覚えます。病を負って入院している愛する姉妹や多くの人々。命を助けるために闘っている医療に携わる人々。私たちの生活を守るために仕事に赴かなければならないあらゆる職業の人々。また仕事を失い生活に不安を覚えている人々。心身に痛みや苦しみを抱えてうずくまる人々。すべての人に主が愛と憐みを注ぎ、癒しと慰め、励ましと勇気をお与えください。

この小さな祈りを尊き主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。

アーメン